

環境リスクの新展開

環境リスク分科会委員長 名古屋大学名誉教授・中部大学客員教授 20210703

那須民江

最近の環境リスク分科会のあゆみ

2030

25期(2020~2023)

「プラスチックのガバナンス:感染症制御のための衛生環境管理と資源循環」

(12月21-23日 日本公衆衛生学会との共催シンポジウム)

義務・高等教育における「健康リスク教育」の必要性

2021

2017

24期(2017~2020)

提言:「マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性とプラスチックのガバナンス」(20200407) e-book (Springer 2021年9月発刊予定)

2014

23期(2014~2017)

報告:「環境政策における意思決定のためのレギュラトリーサイエンスのありかたについて」

22期(2011~2014)

・夢ロードマップ(2050年までにリスク評価・リスク管理が行われていない有害化学物質の評価を終了する) 提言:「環境リスクの視点からの原発事故を伴った巨大広域災害発生時の備え」(20140904)

e-bookタイトル

Overcoming Environmental Risks to Achieve Sustainable
Development Goals: Lessons from the Japanese Experience

PART 1 過去の環境リスクの事例解析からの学び

- ◆ Chapter 1 e-bookのねらい
- ◆ Chapter 2 水俣病
- ◆ Chapter 3 イタイイタイ病:環境カドミウム曝露による健康障害と住民による環境再生の闘い
- ◆ Chapter 4 土呂久ヒ素公害
- ◆ Chapter 5 四日市ぜんそく一日本における対汚染の健康影響
- ◆ Chapter 6 四日市公害から学ぶ環境政策と国際協力
- ◆ Chapter 7 半世紀前の日本の公害から私たちは何を学んだか

PART 2 今、世の中が注視している環境問題

- ◆ Chapter 8 日本における製品中の残留性有機化学物質と非意図的生成物の 管理に関する現状と問題点
- ◆ Chapter 9 市民のアスベスト曝露の健康リスク評価・リスク管理
- ◆ Chapter 10 海洋プラスチック汚染: 化学的側面と可能な解決策
- ◆ Chapter 11 原子力災害における解決と諒解
- ◆ Chapter 12 わが国が直面する環境リスクとその管理

PART 3 持続可能でウェルビーイング社会の実現に向けて

- ◆ Chapter 13 未来の洗浄を考える
- ◆ Chapter 14 責任ある消費への取り組み-小国町
- ◆ Chapter 15 公害裁判から未来の行動目標へ
- ◆ Chapter 16 環境モデル都市への取り組み。持続可能で健康的な都市を目指して
- ◆ Chapter 17 持続可能な未来社会のために、プラスチックからの脱却を目指す
- ◆ Chapter 18 人新世における環境リスクの課題
- ◆ Chapter 19 環境リスクのスペクトルーリスク評価・リスク管理・リスクコミュニケーション
- ◆ 2030年に向けた行動目標
- ◆ SDGs17パートナーシップで目標を達成しよう

25期環境リスク分科会の新展開(1)



















25期環境リスク分科会の新展開(2)

- 1. 日本公衆衛生学会との共催シンポジウムについて 「プラスチックのガバナンス: 感染症制御のための衛生環境管理と資源循環」
- ◆24期の提言が政策面にどのように反映されているか
- ◆新型コロナウイルスのパンデミック禍でプラスチックの生産や消費がどのように 変化しているのか
- ◆医療系プラスチックの動向の議論
- ◆大気中マイクロプラスチック汚染はどうなっているか

2. 提言

◆義務・高等教育における「健康リスク教育」の現状と必要性について